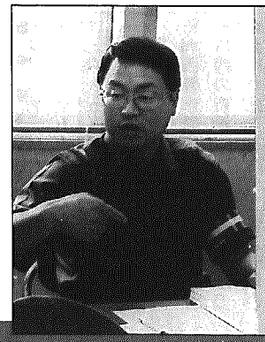
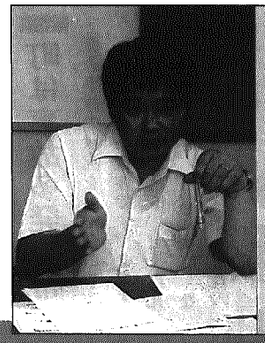
原因は千差万別。被害は自分自身

座談会

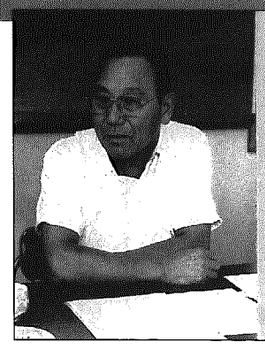
八月二十五日現在、県内で交通事故による死亡事故が十五日間連続して起きています。国道8号線をはじめ北陸自動車道のインターなどが縦断し新潟市の隣に位置する黒埼町においても、交通事故が増え、七月には交通事故防止重点地域に指定されました。そこで、日ごろ交通安全にご活躍していただいている関係者に、今後、どう対処したらよいのかを話していただきたいと思います。（土田総務課長あいさつ）



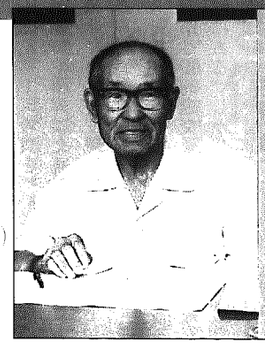
高橋　修さん　新潟西警察黒埼幹部派出所所長　家庭では交通事故の話を必ずする。まず家庭から。



山際　昇さん（木場川前・40歳）新潟西交通安全協会黒埼支部の役員を務めている。飲んだら乗るな。



白井芳司さん（小平方・61歳）二十年近く交通指導隊で活躍し隊長を務める。「日々是交通安全」



大沢政市さん（大野・83歳）県の老人交通安全推進委員。大正末に免許を取得。以来安全一筋。

交通安全に力は入るが

土田課長　最初に皆さんの活動内容などを話してください。

白井　交通指導隊では春夏秋冬の交通安全週間に街頭指導をするほか、小学校で自転車教室をやっています。子供たちは熱心なんですが、母親のマナーが悪いですね。朝の街頭指導では、小学生は素直なんですが、中学生は一回言われても言うことを聞きませんね。

山際　交通安全協会では街頭指導をやるほか、若い人から動いてもらおうと以前は交通安全ラリーをしましたし、ふれあい二、三年やりました。交通安全教室を流通センターで今年もやります。速度当てとか坂での急発進などの競技をやり、実地で交通安全をふりかえってもらおうと思います。

大沢　県から委嘱され老人交通安全推進委員を十年ほどしています。これからはお年寄りの交通安全対策がとても重要になってくると思います。

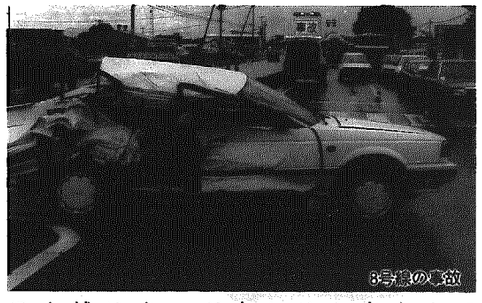
笹川　交通安全母の会は大野の婦人会に入ると同時に入会するのですが、ほかの地区ではありません。おのずから活動にも限りがあり、交通安全協会に協力する形になっています。

高橋　交通事故が起き警察が悪いと言われればいくらあやまってもいいのです。交通をとりまく状況が近年変わりつつありますが、今も昔も交通事故を起こしてしまったら、自分や家族が大変な不幸になることに変わりはありません。

家庭や職場 地域から

土田課長　家庭で交通安全のことが話題になっているでしょうか。

笹川　家庭が何より大事ですね。交通安全をくり返し話していれば効果はありますわ。



8号線の事故

高橋　青少年の非行もそうですが、話をする場所が家庭からなくなってきていますね。

大谷　交通安全教育は子供のときからと保育所などでも交通ルールを覚えさせてはいます。ゲームなどで身につけさせることが大切。

笹川　ただ、子供は親の姿をいつも見ていますから、まず親が正しい手本を見せないと。

山際　子供をしつける親や大人の再教育が必要な気がしますね。講習会の出席する人が増えてはいますが、いまひとつですね。

土田課長　家庭だけでなく社会的環境も重要。プロのドライバーがモラルに欠ける運転をしたり、職場で安全教育をしなかったりでは困るのですが。

高橋　職場や地域で安全教育をしてほしい。していない所は重大事故を起こす。

山際　街頭指導はただ立っているだけという気もしてしまう。

高橋　しかし、人が一生懸命やっているのを見ると、自分たちも気をつけようと思う。地域や家庭が交通安全の単位になってほしい。

特集／ただいま町は交通事故防止重点地域

安全運転の秘訣

34年間無事故無違反で元タクシードライバーの高橋勲司さんに聞く

昭和27年に免許を取得。40年から60年まで20年間タクシードライバー。58年に無事故無違反30年表彰。62年知事表彰。小平方、62歳。

いつも大切な人が隣に

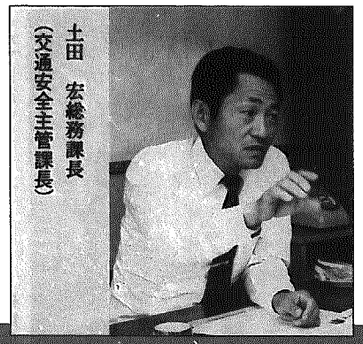
まず、秘訣とかコツというものは安全運転にはありません。1日350キロ走るタクシーのドライバーがアドバイスできることは――、

①乗る前には始業点検。これをおろそかにしてはいけません。車とは元々が危険なものなのです。ボンネットを開けたことがない人はドライバー失格。せめてときどきオイルをみてください。

②運転中は大切な人を乗せているつもりで。奥さんや子供、恋人などを乗せて運転しているときは事故が少いのです。わたしはいつもお客様を乗せて走っている気持ちでいました。安全が何よりのサービスです。一般のかたもぜひ。

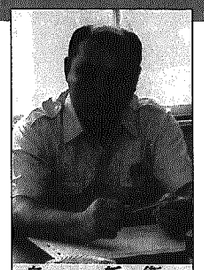
③飛び出し、交差点、大型車に注意。この3つがいちばん危険だと経験上思います。

事故はとても悲惨です。同僚が事故を起こしたのを見たりすると、自分は絶対にと誓ったものです。近年、道路も車もよくはなりましたが、車は危険と隣合わせだと思います。

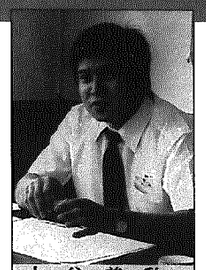


土田　宏総務課長（交通安全主管課長）

笹川チヨさん（大野・53歳）昨年から交通安全母の会会長。毎日、事故は絶対に起こすまいと。



泉　新衛　総務課 庶務係長



大谷善秋　総務課・庶務係（交通安全担当）

関係者は語る

「ほんとうに事故は減るのだろうか」

お年寄りの事故防止を

大谷　六月から来年三月まで高齢者の事故防止対策県民運動ですが。

大沢　免許を持たないお年寄りには交通安全の指導が必要。老人会の寿学級に参加している人は講習を受ける機会がありますが、そうでない人は受けれない。実際問題として、国道を渡るときなど、横断歩道を渡りきらないうちに信号が変わるときがある。

高橋　ドライバーはお年寄りに気をつけることです。免許を持っている人の責任です。警察もお年寄りの交通安全が大きな課題になってきています。

土田課長　飲酒運転がまだ起こるようですが。

高橋　あります。ですから、自分が正しい運転をしていても事故に遭う危険はある。いろいろな事故から自分をどう守るか、あたりまえのことですが、一人一人が考える必要があります。

笹川　おじいちゃんだいまという交通警察官の手記集があります。これを読むといつも泣いてしまうのです。一人でも多くの人に読んでほしいと思います。

山際　自転車の人ももっと交通ルールを守ってほしいですね。

白井　中学生と高校生のマナーが悪いですね。パトロールでいくら注意しても効果がないようで…。

警察も行政もあなたも

大谷　黒埼町は他市町村に比べ交通量が多く、インターや国道など特別な事情もあります。

高橋　それだけに警察も黒埼町には力を入れています。町自体もカーブミラーなど多く設置してありますし、行政もきめ細かな対応をしていると思います。国道などよりも田んぼ道などで事故が多く、もう少し注意していればと思う事故が多いのです。

泉　町を取り巻く道路環境は大きく変わろうとしています。8号線の拡幅、小針街路や西バイパスの開通も間近に迫ってきています。町道の鳥原寺地線も工事が進んでいます。

土田課長　今後も交通安全対策は計画的に実施していくつもりです。具体的には、交通指導隊の増員を図ります。これは九月議会で予算措置する考えです。また、役場の交通安全担当は現在一人ですので早急に、臨時職員を一人増員したいと思っています。安全協会については自治会の協力を得て会員の増加を図りたいと思います。しかし、行政や警察、関係団体がいかに力を入れても、一人一人が注意しなければ事故は減少しません。あらためて、交通安全をお願いして座談会を終わりに致します。